

「水都おおさか森林の市2015」に参加しました

爽やかな秋晴れの中、「水都おおさか森林の市2015」が、10月4日(日)に近畿中国森林管理局と同局前にある毛馬桜之宮公園の両会場において開催され、近畿北陸整備局、関西支所及び関西育種場が合同で参加しました。

今年は「大川端で森林を体感 森林から学ぼう地球の未来」をテーマとして開催され、



当整備局では、水源林造成事業のパネルや配布用パンフレットや、丸太切り、松ぼっくりとドングリを使ったコースター作り、漢字クイズなどを用意して、多くの来場者の方々に気軽に木との触れあいの場となるよう準備をしました。

当日は開始直後から大勢の子供たちや来場者で賑わい、特にコースター作りにはたくさんの子供たちが終日途切れること無く訪れては、目を輝かせながら工作に夢中で取り組んでいました。

そのような中、「初代ミス日本みどりの女神」佐野加奈さんが来訪され、子供達に「かわいいコースターだね」と声掛ける場面があり、場が一気に華やぎました。



丸太切りでは、子供たちが保護者の方や周囲の方々の声援を受け、真っ赤な顔をしながら必死にノコを引き、切れたときには一斉に拍手や歓声があがり、子供たちもご満悦顔となるなど、都心部では普段味わえない体験を大いに楽しんでいるようでした。



また、漢字クイズでは大人の方を中心に難問に頭を抱えながらも、担当者からのちょっとしたヒントで次々正解するあたりはさすが「知恵蔵」と言いたくなるほど博学ぶりを発揮される方や、初級編で白旗を掲げる方など様々で、一様に「身近にある木なのに漢字を知らないものが沢山あり勉強になりました」と感想を残してもらいました。

こうして、短い時間でしたが、ブースへの来場者数も200名を越える皆様にお越しいただき盛況の内に無事終了し、小さな子どもさんが、一生懸命作ったコースターを大事そうに抱えながら、笑顔で帰って行く姿を見て一日の疲れが癒やされる思いでした。

当整備局としては、今後もこうしたイベントに積極的に参加し、多くの方に森林の大切さ、林業の役割や農山村の現状について理解を深めていただくよう取り組んでまいります。

